



これからの社会につながる学校での学び方とは?

11月27日(木)、SSH職員研修を実施しました。

生徒のみなさんは6限授業で放課だったので、少しラッキーだったかもしれませんね。

今回の研修では、リクルートEd-tech総研の所長である森崎晃(もりさき・あきら)氏を講師にお迎えし、「未来を担う人材育成につながる学校の学び方」をテーマにお話しいただきました。

森崎氏は、東京大学を卒業後、大手銀行やIT企業での勤務を経て、現在はリクルート社のリクルートEd-tech総研所長のほか、東京学芸大学や関西国際大学の准教授も務められている方です。講話では、豊富なご経験と研究をも

とに、社会で求められる「ビジネス実践力」を切り口として、これからの時代を生きる生徒に必要な力について考える内容が語されました。SSH(スーパーサイエンスハイスクール)の目標とも関連づけながら、これからの学校教育のあり方や主体的な学びの進め方について、先生たち自身が深く考える有意義な時間となりました。

さらに、講義後のワークショップでは、先生たちがグループに分かれ、これからの学び方について真剣に協議し、学校として生徒のみなさんの学びをどのように支えていくべきか、活発な意見交換が行われました。

ここからは、研修の中で特に印象に残ったトピックを、生徒のみなさんにもいくつか紹介します。



印象に残ったトピック①【現代の企業が求める力について】

今、社会の多くの企業では、かつてのように「上から言われたことをしっかりこなすだけの人(ソルジャー型)」ではなく、自分で課題を見つけ、解決策を考え、創造的に行動できる人材が求められています。その背景には、働く環境の変化があります。誰かが細かく注意してくれる時代ではなくなり、上司も“叱ること”に慎重にならざるを得ない状況があります。だからこそ、自分で気づき、試し、挑戦し、振り返って修正していく姿勢が重要になっています。これは学校でも同じです。以前のように細かな校則で行動が決められる時代ではなくなりました。

みなさん自身が、自律して、どう行動するかを自分で決めなければならない時代を生きています。その力を身につけることが、これからの社会で活躍するための大きな武器になるということですね。

印象に残ったトピック②【ミッション・ビジョン・バリューから考える“これからの学び方”】

企業の世界では、ミッション(使命)・ビジョン(目指す未来)・バリュー(大切にする価値観)を明確にし、その理念をもとに社員一人ひとりが行動することが重視されています。これは、経営学者ピーター・ドラッカーの考え方方が広く取り入れられているものです。中でも特に大切にされているのがバリュー(価値観)です。

バリューとは、「仕事にどんな姿勢で向き合うのか」を示す考え方で、企業ごとにさまざまです。たとえば、

ローソン …「マチ一番の笑顔あふれるお店」「チャレンジを楽しもう」など、前向きに挑戦する姿勢を大切にしています。

サントリー …「やってみなはれ精神」「Growing for Good」「利益三分主義」など、挑戦だけでなく“社会に役立つ姿勢”も重視しています。

メルカリ …「Go Bold(大胆にやろう)」「全ては成功のために」「プロフェッショナルであれ」など、高い専門性と挑戦する姿勢を掲げています。

こうした企業は、社員に一つの正解を求めているわけではありません。むしろ、変化の激しい時代だからこそ、どんな立場で考えるのか、どう課題を捉えるのか、どのような行動を選ぶのかといった“プロセス(考え方・姿勢)”を重視しているのです。学校での学びも同じで、「正解を当てること」以上に、自分はどう考え、どう行動するかという姿勢が大切になっています。

印象に残ったトピック③【西校のみなさんに求められる力】

今の時代は、何事も「これが正解」という答えが1つに決まっているわけではありません。だからこそ、これから大切なのは、変化に柔軟に対応する力や相手の立場を理解しながら行動する力、仲間と協力してよりよい答えをつくる力、自分の価値観をもとに、自ら考え行動する力です。本校では、これらを「育成する6つの力」として掲げています。皆さん一人ひとりが、自分なりの“価値観”や“目指す姿”をもち、友達や先生と協力しながら、よりよい学びを目指していきましょう。

